

全美協では、このようなことを考えています。

今日、Society5.0の社会に向かって教育は大きく変化しつつあります。その様な中、造形美術教育を推進して行くには、異なる他者との意見を交流し新たな価値をつくっていかねばならないと考えております。たとえば、新たな教材開発を企業と一緒にできないか？新教材のテストはできないか？その様な発想からこの会員制度を検討してきました。

全国大学造形美術教育教員養成協議会（全美協）の構成メンバーは主に幼児教育が中心です。約7割が保育士資格・幼稚園教諭資格課程。4割が小学校免許課程、2割が中高教員課程を持っている大学です。いまままで小中高の教員養成を担ってきた独立法人国立大学の教員養成課程が縮小していく中で、これまでも増して我々の役割が増大しております。全美協は造形美術教育の振興を図る団体です。新たな時代を鑑み、新しいプロジェクトをスタートさせようとしています。

<p>実践報告 2019</p>  <p>未就学児を対象とした新聞紙スティックによる立体づくり 岡山短期大学 関野 智子</p> <p>1. はじめに 新聞紙を糸でスティック状にした紙を挿入した造形遊びは広く知られている。この活動の趣旨は①必要な材料が新聞紙とセロテープのみ。比較的コストが抑えられること②スティック同士をセロテープで固定すること③ランダムな制作過程で立体になること④「バランスをとること」「強度を高めること」「イメージを具現化すること」等に意識を集中させること⑤「上、アレンジの余地が十分にあること⑥身体も大きくないが、必要に応じて作品が崩れても大丈夫に作りかかっていること⑦半日から1日程度、立体から空間へは活動をダイナミックに展開できること等が挙げられる。未就学児にとってスティック制作は容易ではないが、スティックによる立体制作は未就学児にとっても主眼で無い学びを得られるものではないかと考え、新聞紙スティックによる立体づくりをそれぞれ異なるシチュエーションの中で実践した。</p> <p>2. 継続的な取り組みの中の展開（注：保育園） 造形活動の発展的取り組みとして継続的に取り組んでいる私立保育園にて2018年11月5歳児を対象に活動を行った。（1クラス24名×2クラス、活動は6人1グループ、活動時間は60分/回はリットル入りカードを用いた立体づくりを補助）。</p> <p>40</p>	<p>実践報告 2019</p>  <p>保育所における食育と関連付けた領域（表現）の実践—魚をテーマとした造形活動を中心に 仙台白百合女子大学 千凡 眞</p> <p>1. はじめに 筆者担当の「子ども発達総合演習（以下、3年次ゼミ）」では、子どもの保育・教育に関わる課題テーマに対して高次表現をメインとする実践プログラムを構築し、それを学外の保育・教育現場で実践することを進めている。そして2018年度の課題テーマを設定するにあたり2018年発行の『幼児教育実践』—新保育者養成指針に示された「幼児期の終わりまで培ってほしい姿の中、「自然との関わり・生命尊重」と「豊かな感性と表現」に着目した。自然との関わり・生命尊重を保育として扱う、それを豊かに感性と共に育む「食育と表現活動」を結びつけた実践」を課題テーマとして立てた。3年次ゼミの5名の学生とそのテーマにおける実践プログラムを構築・準備し、宮城県A保育所で実践を行った。本実践は、その「食育と表現活動」を結びつけた実践」のうち、造形活動にかかわる内容を中心に述べることにする。</p> <p>2. 「食育と表現活動を結びつけた実践」プログラム 本実践におけるプログラムは、A保育所の5歳児19名を対象とし、2回に渡って実施された。題材はとろろ、自然の恵みと関わりとくんと大塚を告知、感謝の気持ちを持って食事を楽しむ。この取り組みは、「食育と表現活動を結びつけた実践」を課題テーマとして立てた。3年次ゼミの5名の学生とそのテーマにおける実践プログラムを構築・準備し、宮城県A保育所で実践を行った。本実践は、その「食育と表現活動」を結びつけた実践」のうち、造形活動にかかわる内容を中心に述べることにする。</p> <p>48</p>	<p>実践報告 2019</p>  <p>20 m×15 mの巨大絵画を描く-クスノキプロジェクト 武蔵野美術大学 三澤 一夫</p> <p>1. はじめに この取り組みは、「旅するムサシ」に由来しているという三浦伊勢由布立東大造形小学校からの一歩の進歩から始まった。そこで、校舎が改装した際に出て新しい顔しを模して行った。東大造形小学校は、全校児童100人の小さな学校で、ゆくゆくは隣の小学校との統合が計画されている。校舎の中ほどには1本の大きなクスノキがあり、昔から今まで、学校に通う子どもたちの憩いの場になっている。そのクスノキに関連させ、全校で取り組める企画を考えてほしいとの内容であった。同校ではクスノキについてクスノキ学習と呼ぶ総合的な学習の時間を展開している。そして、「クスノキさん」という歌もある。学校のシンボルツリーについての学習を深めることを通して</p>  <p>70</p>
---	---	--

全美協の研究誌も、様々な研究や実践を載せられるように変更しました。

造形教育フォーラム

年度に1回フォーラムを開催し教育について考えます。



△ 2019年度造形教育フォーラム 於：長善寺、法源寺（愛知県名古屋市西区）



△ 018年度造形教育フォーラム 於：桜花学園大学



全美協とは

造形美術教育を担う教員及び保育士の養成について、各大学で情報を持ち寄り、互いの研究を深め、よりよい教員養成に資するための協議会です。正式名称は、全国大学造形美術教育教員養成協議会といます。

本協議会は主に私立大学を中心とした造形美術科教員及び保育士養成の課程及びコースを設置している大学が機関加盟しています。

全美協では、研究誌『大学造形美術教育研究』を発行しています。また、全国造形教育連盟に加盟し、年一回の研究発表を行っているほか、各教員の様々な研究や実践を紹介しあう場として毎月WEBメールマガジンを配信しています。また、造形美術教育フォーラムを企画し、会員や教育・保育現場の先生方との交流も行っています。

(※教員養成とは、幼稚園、小学校、中学校、高校の教諭及び保育士を指します。)